

# トラック輸送情報（平成18年3月分）

平成18年6月5日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、安達、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

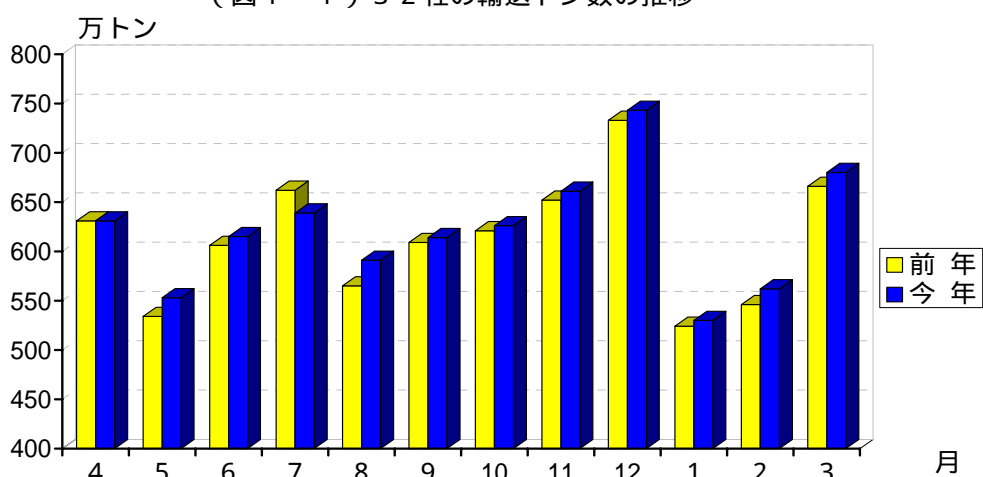
### (1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,802,442トンで、前月と比べ、総輸送量が約118万トン増加したため、前月比121.0%（季節調整済み99.8%）、前年同月と比べ、約14万トン増加したため、前年同月比102.1%の実績であった。

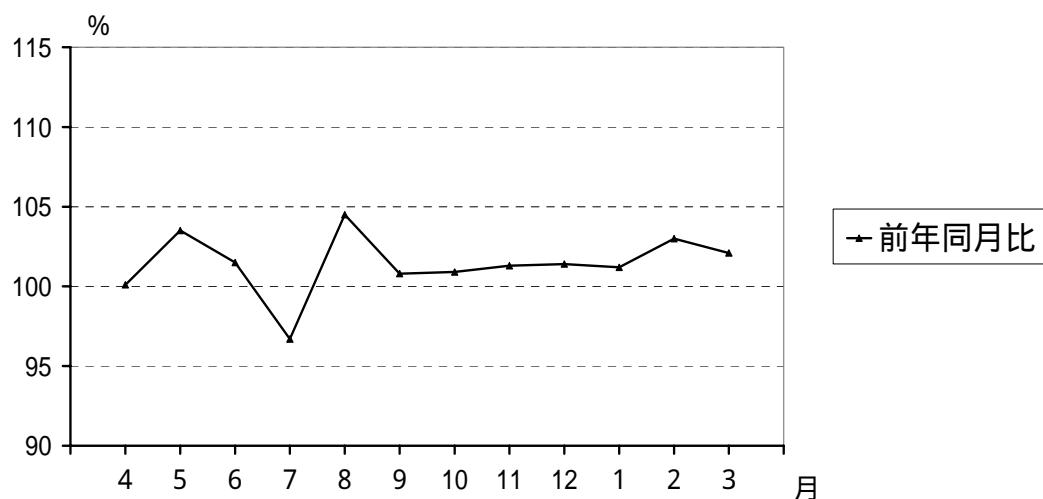
なお、平均稼働日数は25.3日で、前月と比べ2.5日の増加、前年同月比では増減はなかった。稼働1日当たりの輸送量は、268,871トンで、前月と比べ、約2万2千トン増加したため、前月比109.1%、前年同月と比べ、約5千トン増加したため、前年同月比102.1%の実績であった。（注：2月の平均稼働日数を21.0日22.8日に修正します。）

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

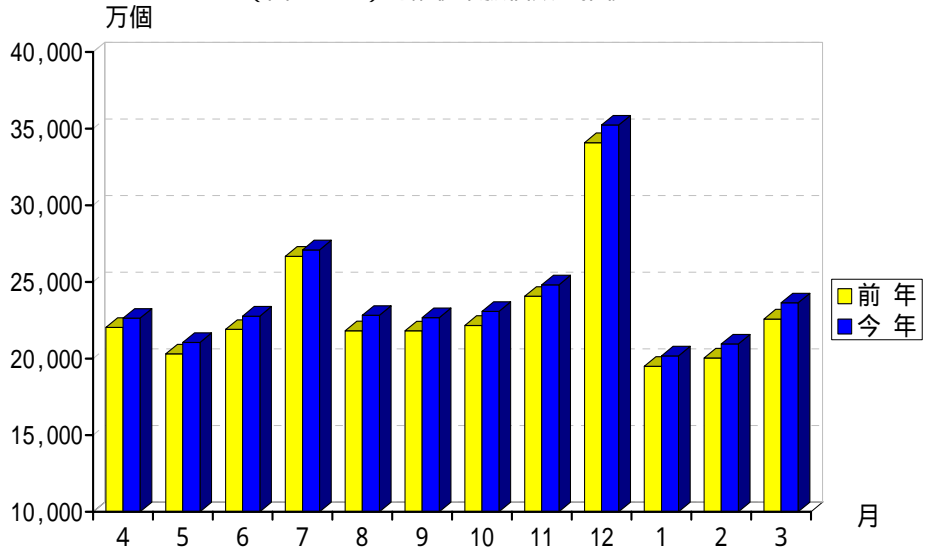


(2) 宅配便の概況

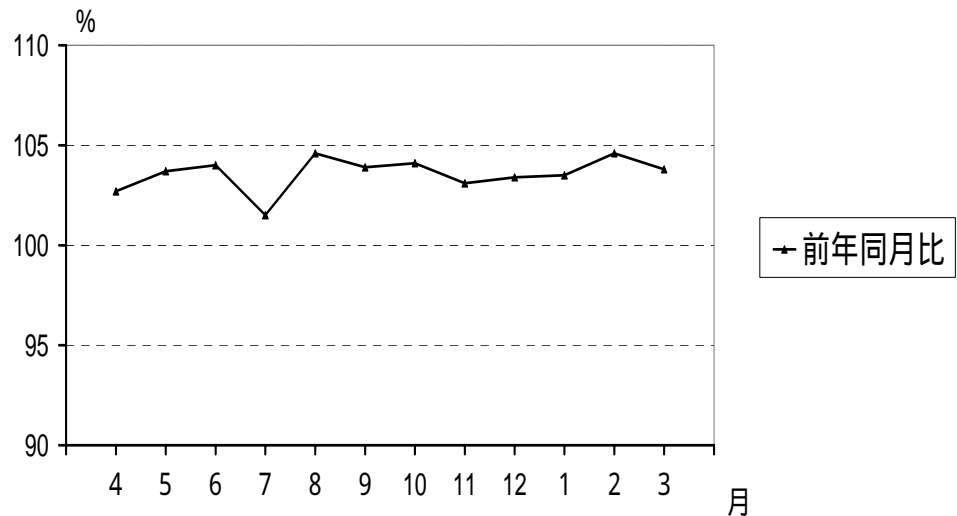
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、236,310 千個で、前月と比べ、約 2,682 万個増加したため、前月比 112.8% (季節調整済み 99.8%)、前年同月と比べると、約 856 万個増加したため、前年同月比 103.8%の実績であった。(注：2月の取り扱い個数を199,715千個 209,494千個に修正します。)

(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、平均稼働日数が増加したことと年度末に伴う需要増により、全ての品目で増加が見られた。理由としては、工場・生産地からの貨物増、倉庫から出る貨物増、季節的需要増であった。また、食料工業品、日用品では商社・問屋からの貨物増も見られた。地域的には、農水産品が東北、金属製品が神奈川、大阪、兵庫、機械が東京、関東、北陸信越、化学工業品が神奈川、関東、愛知、大阪、中国、繊維工業品が関東、中国、食料工業品が関東地方、大阪、中国、日用品が東北、関東地方、中国、その他(宅配便)が神奈川、関東を中心に、それぞれ増加した。

前年同月と比べると、農水産品、食料工業品で工場・生産地からの貨物増が見られた。また、化学工業品、食料工業品では倉庫から出る貨物増が見られた。一方、機械では工場・生産地からの貨物減が見られた。地域的には、農水産品が中国、化学工業品が愛知、大阪、兵庫、中国、九州地方、食料工業品が東北、関東、福岡を中心に、それぞれ増加した。一方、機械が北陸信越、愛知、繊維工業品が神奈川、関東を中心に、それぞれ減少した。この結果、全体としては、対前年同月比102.1%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	14	1	野菜	東北	4	
	金属製品		8	18	1	その他の金属製品	神奈川、大阪、兵庫	4、7、8	
	機械	1	12	13	1	その他の機械、機械部品	関東地方、北陸信越	4、7、8	
	化学工業品	1	17	11		塗料、合成樹脂、その他の化学工業品	神奈川、関東、愛知、大阪、中国	4、7、8	
	繊維工業品		10	18	1	糸、織物、洋服	関東、中国	4、7、8	
	食料工業品	5	11	10	2	飲料、その他の食料工業品、加工食品	東京、関東、大阪、中国	4、5、7、8	
	日用品	5	13	10	1	書籍・印刷物、その他の日用品	東北、関東地方、中国	4、5、7、8	
	その他	3	6	19		宅配便	神奈川、関東	4、8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	16			中国	4	
	金属製品		3	22	2	その他の金属製品		4	
	金属製品					その他の金属製品		4	
	機械		3	18	5	1	その他の機械		4
	機械					その他の機械、機械部品	北陸信越、愛知	4	
	化学工業品		6	20	3		その他の化学工業品	関東、愛知、大阪、兵庫、中国、九州地方	4、7
	化学工業品					その他の化学工業品	関東	4	
	繊維工業品		1	25	3		織物	神奈川、関東	4
	食料工業品		6	20	2		飲料、その他の食料工業品、加工食品	東北、関東、福岡	4、7
	日用品		6	15	7		その他の日用品	東北	4
日用品						書籍・印刷物、その他の日用品	関東、中国	4	
その他		5	18	5			東北、神奈川、関東		
その他							神奈川、大阪		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2 . 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 781 社 / 調査対象事業者数 1,058 社）の輸送量は、前年同月比 100.9%、前月比 111.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.9%	99.7%	99.8%	102.0%	103.7%	99.3%	94.4%	104.5%	101.7%	103.7%	110.7%
前 月 比	111.0%	106.8%	112.6%	109.1%	115.1%	107.2%	118.9%	116.7%	107.6%	115.0%	125.5%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、排雪作業の終了により「廃棄物（雪）」が大幅に減少し、また「砂利・砂・石材」、「セメント」等の土木工事関係の需要が減少したものの、「木材」、「石炭」の需要及び農作業シーズンに備えた「動植物性飼・肥料」の需要増により輸送量が増加したため、対前月比 106.8%となった。対前年同月比は 99.7%であった。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、引越に関連して「日用品」、「取り合せ品」が増加したとともに、建設需要の増加等から「砂利・砂・石材」、「セメント」が、季節的需要から「化学肥料」、「食料工業品」がそれぞれ増加したため、対前月比 112.6%であった。対前年同月比は 99.8%であった。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、稼働日数の増加等もあり、対前月比で 109.1%、対前年同月比で 102.0%とともに増加した。品目別には、年度末需要により「機械」、「日用品」が、季節的需要により「化学肥料」、「取り合わせ品」が増加したとともに、「水産品」、「金属製品」が増加した。一方、目立った減少品目はなかった。今後の輸送見通しは、引き続き次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、建設需要の増加により「木材」、「砂利・砂・石材」の増加が見られた他、引越に関連して「日用品」でも増加が見られた。また、「その他の窯業品」、「機械」、「揮発油」、「廃棄物」でも増加が見られたことから、対前月比 115.1%、対前年同月比 103.7%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、「その他の農産品」、「繊維工業品」について減少が見られたが、季節的需要により「水産品」、「金属鉱物」、「機械」、「紙・パルプ」、「食料工業品」、「日用品」が増加したため、対前月比 107.2%、対前年同月比 99.3%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、年度末に伴う需要増のため、対前月比 118.9%と輸送量が 2 割近く増加した。対前年同月比は 94.4%であった。品目別には、季節的需要により「食料工業品」、「日用品」が増加したとともに、「金属製品」、「機械」、「その他の化学工業品」が増加した。一方、「その他の石油製品」が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向が見込まれる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、年度末ということ、先月よりも稼働日数が増えたこと及び季節的需要により、「木材」、「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「機械」、「食料工業品」、「日用品」、「その他の製造業工業品」の輸送量が増加した。一方、「その他の石油製品」が減少した。この結果、対前月比 116.7%、対前年同月比 104.5%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と思われる。</p>
四国	<p>本月の輸送は、建設需要の増加により「鉄鋼」、「セメント」が、季節的需要により「食料工業品」、「取り合せ品」等が増加した。一方、「穀物」、「畜産品」、「その他の窯業品」が減少した。この結果、対前月比 107.6%、対前年同月比で 101.7%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 115.0%、対前年同月比 103.7%で対前月比では 1 割以上の大きな伸びであった。品目別には、年度末の繁忙期に加えて、季節的需要により、春野菜出荷に伴う「野菜・果物」、引越シーズンにおける「取り合せ品」、新生活準備のための「日用品」がそれぞれ増加したとともに、「鉄鋼」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」、「廃棄物」が増加した。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに減少傾向と見込まれる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「水産品」（魚介類）の県外出荷が増加するとともに、建設需要増により「鉄鋼」が、季節的需要により「その他の農産品」、「取り合わせ品」がそれぞれ増加したため、対前月比で 125.5%、対前年同月比では 110.7%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに横ばい傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	4
	減	0	2	1	1	0	0	0	1	1	0	6
2. 野菜・果物	増	0	1	0	1	0	0	0	1	6	0	9
	減	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4
3. その他の農産品	増	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	5
	減	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
5. 水産品	増	1	1	1	0	1	0	0	0	2	1	7
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
6. 木材	増	6	1	1	3	0	0	3	0	3	0	17
	減	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 金属鉱	増	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
10. 砂利・砂・石材	増	4	2	0	2	1	0	2	0	3	0	14
	減	9	0	0	0	0	0	0	0	3	0	12
11. 工業用非金属鉱物	増	2	2	1	0	1	0	2	0	1	0	9
	減	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
12. 鉄鋼	増	0	0	0	3	0	1	3	2	3	1	13
	減	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
13. 非鉄金属	増	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14. 金属製品	増	2	3	2	2	1	2	1	0	2	0	15
	減	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	4
15. 機械	増	0	2	5	4	2	2	4	2	2	0	23
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
16. セメント	増	2	5	0	0	1	0	2	1	2	0	13
	減	4	0	0	0	0	0	1	0	2	0	7
17. その他の窯業品	増	1	0	0	3	1	0	2	0	1	0	8
	減	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	4

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増
18. 揮発油	増	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	4
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3
	減	2	0	0	1	0	2	1	0	1	0	7
20. コークス・ その他の石炭製品	増	1	1	0	2	0	0	1	1	0	0	6
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化学薬品	増	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	4
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
22. 化学肥料	増	1	3	3	1	0	0	0	1	2	0	11
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
23. その他の化学工業品	増	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	5
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
24. 紙・パルプ	増	2	2	0	1	1	2	1	1	1	1	12
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
26. 食料工業品	増	2	5	0	1	1	3	3	6	7	0	28
	減	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
27. 日用品	増	4	3	2	1	1	3	2	0	2	0	18
	減	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
28. その他の製造工業品	増	0	2	0	0	1	1	3	0	3	0	10
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	4	1	2	0	0	0	1	0	3	0	11
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
32. 廃棄物	増	1	2	0	2	0	0	1	0	3	0	9
	減	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	3	4	2	0	0	1	1	4	2	2	19
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35. その他	増	0	2	2	1	1	3	3	1	1	2	16
	減	0	0	2	0	0	0	2	0	0	1	5